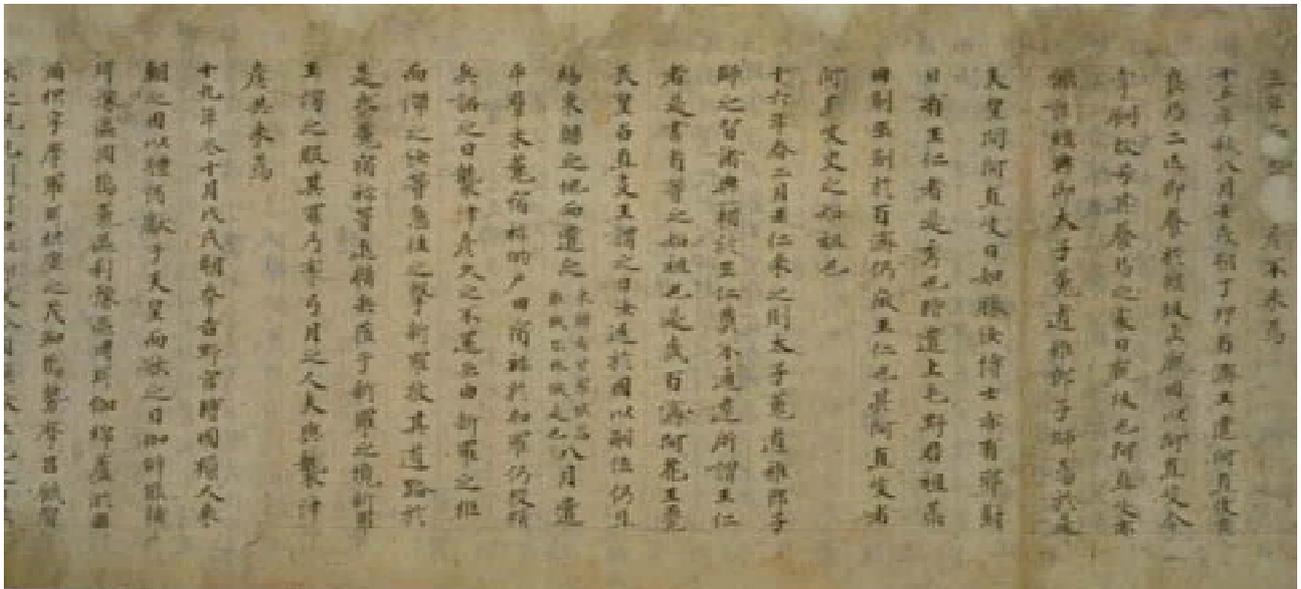


日本書紀

【資料】

日本書紀は、わが国最古の勅撰の国史で、舎人親王らにより720年(養老4年)に完成した。いわゆる六国史の最初に当たる歴史書である。神代から持統天皇の時代までの出来事を、漢文により編年体で記している。

六国史(日本書紀 - 続日本紀 - 日本後紀 - 続日本後紀 - 日本文徳天皇実録 - 日本三代実録)



上段は現存する最古の写本、下段は木版

古事記(712年)と日本書紀(720年)は、どちらも天皇の命令をうけて7世紀末から8世紀の初期に作られた歴史書であるとともに、内容はともに神代から始められているために、推古天皇(第22巻)までが重複している。

なおこの時代は、国号を倭国から日本国へ、君主号を大王から天皇へと変更した。中国をモデルにした律令制定が行われ、中央集権的国家体制への整備が急ピッチで進

められていた。

古事記は「記」で日本書紀が「紀」である。わずか8年の間隔で同じ時代の歴史書が2種類編纂された当時の時代背景には、歴史書に対する大きな期待が伺える。

巻第一

かみよのかみ 神代上の巻

第一段、天地開闢かいびやく（天地のはじめ及び神々の化成した話）

第二段、世界起源神話の続き

第三段、男女の神が八柱、神世七世かみのよななよ

第四段、国産みの話

第五段、国産みに次いで神産みの話（山川草木・月日などを産む）

第六段、アマテラスとスサノオの誓約（イザナキ死に、スサノオは根の国に行く前にアマテラスに会いに行く。アマテラスはスサノオと誓約し、互いに相手の持ち物から子を産む）

第七段、岩戸隠れ（スサノオは乱暴をはたらき、アマテラスは天の岩戸に隠れてしまう。神々がいろいろな工夫の末アマテラスを引き出す。スサノオは罪を償った上で放たれる）

第八段、くさなぎのつるぎ（スサノオが出雲に降り、アシナヅチ・テナヅチに会う。スサノオがクシイナダヒメを救うためヤマタノオロチを殺し、出てきた草薙剣をアマテラスに献上する。姫と結婚し、オオナムチを産み、スサノオは根の国に行った）

巻第二

かみのよしも 神代下の巻

第九段、葦原中国平定・天孫降臨（葦原中国の平定、オオナムチ父子の国譲り、ニニギの降臨、サルタヒコの導き、ヒコホホデミらの誕生）

第十段、山幸彦と海幸彦の話

第十一段、神日本盤余彦尊かむやまといはれひこのみこと誕生

巻第三より以降の漢風諡号は、『日本書紀』成立時にはなく、その後の人が付け加えたものと推定されている。

 [トップページへ戻る](#)